



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

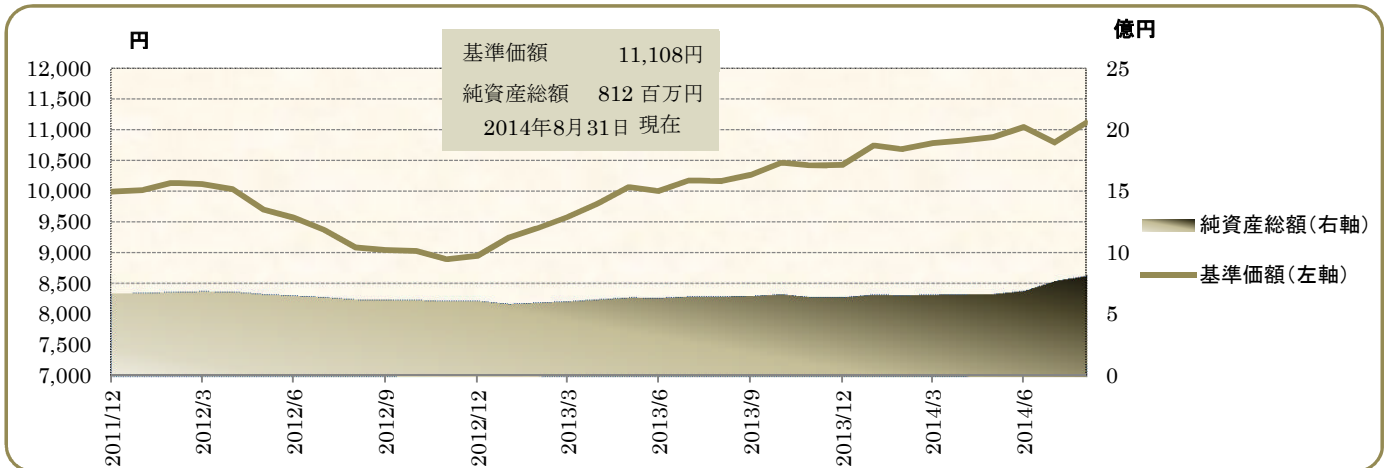
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2014年8月31日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後、税引前)

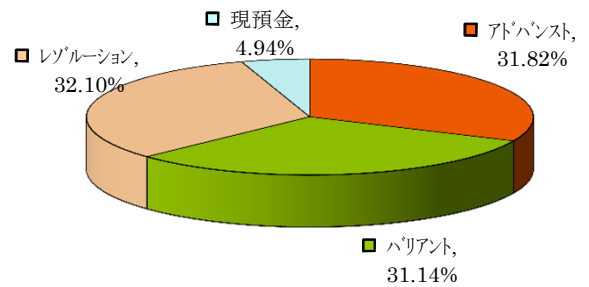
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%					6.56%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.32%	1.57%	2.01%	2.27%	2.77%	-0.68%	1.80%	-0.18%	1.03%	1.91%	-0.43%	0.08%	16.51%
2012	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	0.28%	1.22%	-0.21%	-0.83%	-3.36%	-1.32%	-2.12%	-3.02%	-0.45%	-0.17%	-1.51%	0.66%	-10.40%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673 百万円	
基準日:	2014年8月31日	
基準価額:	11,108円	対前月比 317円
純資産総額:	812 百万円	対前月比 +38.2 百万円
設定来高値:	11,108円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	2.09%
基準価額騰落率	6ヶ月	3.98%
設定来	ファンド	11.08%
基準価額騰落率	TOPIX	76.62%
	日経平均	83.59%

投資対象ファンドへの資産配分 (2014年8月31日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後、税引前)

2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月*	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
ブラウイス	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%					5.95%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%					4.56%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%					17.54%
アドバンスド	3.59%	1.01%	0.60%	2.15%	1.23%	2.72%	-1.24%	3.30%					14.06%
ハリアント	7.64%	0.92%	3.59%	3.63%	1.89%	5.28%	-2.17%	2.07%					24.91%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
ブラウイス	2.93%	1.07%	1.65%	3.95%	3.00%	-0.09%	1.11%	-0.32%	0.23%	0.95%	-1.04%	-0.06%	14.08%
ウィズダム	2.59%	2.09%	0.71%	2.09%	2.03%	1.19%	1.36%	0.44%	1.06%	0.73%	-0.15%	-0.01%	15.05%
レゾリューション	5.82%	2.76%	4.78%	2.00%	4.83%	-1.97%	4.08%	0.46%	2.94%	4.90%	1.06%	1.46%	38.27%
アドバンスド	7.06%	6.89%	2.79%	6.39%	5.21%	4.71%	4.15%	0.84%	1.20%	1.91%	-2.71%	1.61%	47.65%
ハリアント	11.36%	2.57%	1.43%	14.44%	7.46%	1.93%	3.77%	0.67%	0.51%	3.33%	-5.39%	3.07%	53.66%

* 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

* アドバンスドとハリアントの騰落率は、2014年6月以前はJPY-Sクラスの騰落率、2014年7月以降はJPY-Fクラスの騰落率です。年初来の収益率は月次収益率を時間加重したものです。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

8月の株式相場は、日経平均で1.26%下落の15,424.59円、TOPIXで0.89%下落の1,277.97ptと、4か月ぶりの下落となりました。

上旬は、欧州景気への警戒感やFRBの早期利上げ観測などを受け欧米株安となったほか、ウクライナ情勢や中東情勢など地政学リスクの緊迫化から大きく下落し、イラク空爆が承認された8日には日経平均で450円を超える下げ幅となり、15,000円を割り込みました。

中旬は、米株高や円安進行、地政学リスクへの警戒感がひとまず和らいだことを背景に15,000円台を回復しましたが、商いは低調で方向感を欠く展開となりました。

下旬は、夏休みで相場参加者の少ない状況ということもあり、大型株に関しては方向感のない展開となり一進一退でした。

規模別では、大型株が動かない中で中小型株には断続的に買いが入り、中旬以降その動きが加速しました。特に東証一部指数は+5.4%と大きく上昇し、2007年7月以来の高い水準となりました。

東証一部の一日平均売買代金は1.7兆円と、4月以降5か月連続で2兆円を下回りました。上旬は相場が大きく動いたことで2兆円を超える日もあったものの、全体としては低調となりました。

需給面では、外国人が3か月ぶりに売り越し主体となりました。一方、個人投資家が5か月ぶり、投資信託が3か月ぶりに買い越しになったほか、信託銀行が4か月連続の買い越しでした。

セクター別騰落率では、医薬品、海運、建設、化学、その他製品が上位となり、金属製品、鉄鋼、その他金融、不動産、ゴム製品が下位となりました。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【レゾリューション】

〈ファンド運用状況〉

8月の株式市場は、小型株が大型株に対して一貫して優位に推移しました。また、月末に向けて、バリュエーションの上昇が目立ち、これまで局地的に上昇していた高バリュエーション銘柄も一服する展開となりました。

ポートフォリオは、電機、サービスなどのセクターをオーバーウェイトし、小売セクターを大きくアンダーウェイトとしました。また、小型株ロング、大型株ショートの状態を維持しました。

業績好調なテクノロジー銘柄で割安にあった田淵電機(6624)や市場環境が良好な人材ビジネスを行うアウトソーシング(2427)などのロングがプラス寄与し、四半期業績での進捗が緩慢な一部テクノロジー株のロングがマイナス寄与となりました。

割安銘柄のロングを中心に月末に向けて収益を確保できたため、高バリュエーション銘柄のショートによる先月のマイナス傾向をカバーし、さらなる収益積み上げを計ることが出来ました。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

外部環境のリスクを意識しながらも、堅調な相場展開となっています。一部バリュエーションの見直しも見られはじめ、極端に売買回転率の高い銘柄が買われるようなファンダメンタルから乖離した値動きも修正されつつあります。一方、引き続き局地的な小型株への買い意欲は強く、ファンダメンタルに基づいた割安修正による収益チャンスは継続していると考えます。

四半期決算の内容に応じた値動きがほぼ落ち着きつつあります。今後は、上期決算を睨みつつも、来期業績を意識した銘柄選別を進めます。

銘柄選別においては、定性的なプレミアム付与が可能なグロース性を重視します。高バリュエーション銘柄のショート機会を伺い、一方、業績モメンタムの大きい割安株のロング銘柄の組入を行います。

引き続き、成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

【アドバンスド】

〈ファンド運用状況〉

8月の運用成績はJPY-Fクラスで+3.30%でした。地政学リスクへの警戒感からか大型株のバリュエーションによる割安・割高が効きづらい中、中小型の好業績銘柄が上昇し、プラス収益を確保しました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションではデジタルガレージ(4819)、日本ケミコン(6997)、ショートポジションではカカコム(2371)、丸井グループ(8252)がプラス収益に寄与しました。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

9月の株式市場は上昇を予想します。7-9月期以降は消費増税の影響が一巡することに加え、為替がドル高円安方向に転換しており、国内企業の業績改善期待が高まる中、安倍政権の政策期待などから年初来高値に迫る相場展開を予想します。但し、ウクライナや中東情勢など地政学リスクの高まりは市場のかく乱要因となります。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定的な収益を目指します。

【バリエーション】

〈ファンド運用状況〉

8月の運用成績はJPY-Fクラスで+2.07%となりました。8月上旬に電機セクターのショート銘柄で好決算が続いたため、パフォーマンスは悪化しました。しかし、中旬以降割安に放置されていた中小型株の水準訂正があったことや、割高水準まで買われていた銘柄が相対的にアンダーパフォームしたことから、運用成績も改善いたしました。

セクター別の損益は、情報通信、食品、サービス、化学セクターでプラスとなり、小売、銀行、パルプ紙セクターでマイナスとなりました。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

9月の株式市場は緩やかな上昇を想定します。ウクライナ情勢などの地政学リスクや、国内の消費低迷に対する懸念はありますが、堅調な米国経済を背景にした円安進行や、GPIFの運用改革に対する期待から株価は底堅く推移すると考えます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会

エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**